

学校経営のポイント

“充実した夏休み”と書ける夏休みに

若井 彌一

学期制の変更を行う学校が増加しているため、1学期の終業式を行うところと行わないところがあるが、学期制の変更や終業式の実施の有無などに関係なく、児童・生徒は心待ちにしていた夏休みを迎えたことであろう。

学級目標や指導方針のふり返りを

児童・生徒が夏休みを心待ちにしているのとは反対に、教師（学校）としては、苦勞して4月から3ヵ月余りに及んで築いてきた児童・生徒の学習指導の取組みが途切れることについての不安が伴う。

工夫を重ねて学級づくりをしてきた教師にとっては、なおいっそうその不安が強いかもしれない。目の届かないうちに、自分の期待する方向とは反対の方向へ児童・生徒の生活態度が変容してしまうのではないかと、なにがしかの不安を感じるのは、きわめてノーマルな感覚であると思われる。

しかし、漠然とした不安感を募らせることは、生産的でも健康的でもない。児童・生徒は、その子なりに4月から3ヵ月余りの学校生活での教師からの指導方針をふまえて夏休みを送っていくことであろう。

肝心なことは、この指導方針が児童・生徒にきちんと伝わり、理解され、定着しているかどうかである。この点について、夏休みを迎えたこの際にふり返りが必要である。

各学校では、各年度の重点的な取組み課題を掲げるだけでなく、各学級ごとに学級の目標をスローガンとして掲げているのが一般的である。

各学級の目標は、担任教師の教育目標や教育方針を色濃く反映したものとなっているのだが、要は、その内容・趣旨がどこまで児童・生徒に理解され、定着しているかである。単なるお題目にとどまって

いなかったかどうか、静かにふり返ってみたい。

中・高等学校では、学級担任でない教師の割合が小・中学校に比較して相対的に高くなる。学級担任でない教師には、自分の教科指導の基本方針が児童・生徒に十分伝わり、納得してもらうまでになっていたかどうかをふり返ってみたい。

「充実した夏休み」を呼びかける

おそらく大多数の学校では夏休みが始まっており、児童・生徒は、思い思いの夏休みを味わっていることであろう。

夏休み中に「学級通信」を出す教師の場合は、こまごまとした注意事項を網羅した通信内容ではなく、児童・生徒が「充実した夏休み」と、満足感をもって夏休みをまとめることのできるよう呼びかけていただきたい。また、各学校では、1日登校の際に、同様の指導を旨とするように努めていただきたい。

こまごまとした生活指導にエネルギーを注いでも、ふだんの学校生活とは異なり、良くも悪くも「教師の監視下」に児童・生徒をとどめておくことはできないのである。

「学級通信」を受け取り、あるいは1日登校して、児童・生徒が「よし、先生（学校）の期待にこたえて今年の夏休みは、内容のある充実したものにしよう！」という自覚と意欲を新たにできるように、児童・生徒との信頼関係を重視した骨太の夏休み指導となるように努めたい。

（わかい・やいち = 上越教育大学教授・附属小学校校長併任）

...本紙は、購読料不要です。配信の中止・FAX番号変更等をご連絡くださる場合は、抹消・登録に必要な【あて先/新旧のFAX番号】を必ずご明記ください。
...なお、本紙はEメール配信も行っております。
http://www.kyouiku-kaihatu.co.jp/kenshu 参照。

●新刊案内● 大好評 増刷出来！ 尾木直樹【編】A5判225頁・定価1995円 教育開発研究所刊
保護者の無理難題に担任教師が困っていたら、校長先生、あなたの出番です！

校長・教頭のための困った親への対処法！

研修誌・図書の小社への直接注文は、無料FAX 0120-462-488 をご利用ください（24時間受付・即日発送）